

# 伝統工芸の粋 ご当地レンタカー

## 秋田の会社 内装に川連漆器・秋田八丈など

秋田の伝統工芸をハイブリッド車の内装に施した「AKI TA ご当地レンタカー」の貸し出しが、2月から秋田市内で始まった。ターゲットは、県外からの観光客や企業の観光接待だ。手がけた市内の会社は「レンタカー自体を秋田の魅力の発信源にしたい」と意気込んでいる。

中古車販売「ラビット秋田臨海店」などを経営するドラグーン(秋田市八橋)が、トヨタ自動車の「プリウス」を改造した。ハンドルやコンソールパネルには落ち着いた光沢のある川連漆器(湯沢市)を採用。重厚感があり、時絵が彩りを添える。

ウィンドースイッチパネルには山桜の樹皮を貼り付けた樺細工(仙北市角館)をあしらった。背もたれの上部と天井には、渋みのある黄色や褐色に特徴がある草木染の絹織物の秋田

川連漆器の職人たちが約2年半前に、同店に漆器の自動車部品を持ち込んだのが誕生のきっかけとなった。同社の鎌田学社長(53)が樺細工や秋田八丈の職人に特注加工を依頼すると、最初は驚かれたという。

改造費は1台あたり約40万円。鎌田社長は「直接手に触れ、上質な旅を楽しんで欲しい。

い。伝統産業の活性化にもつながりたい」と話す。

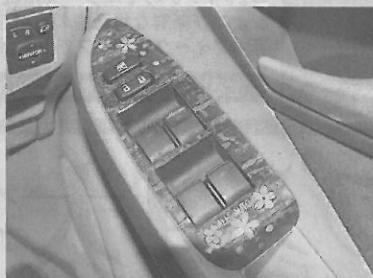
現在、3台を貸し出している。料金は6時間8千円、12時間1万円、24時間で1万2千円。予約は同社が経営する「100円レンタカー秋田臨海店」(018・867・0808)へ。(神野勇人)



①つやのある川連漆器が施されたハンドルとコンソールパネル

②樺細工が施されたスイッチパネル

③トランクルームに敷かれた秋田杉のすのこ



背もたれの上部に施された秋田八丈は、車体の色によって異なる